



「異学年交流」で大きく成長

初夏のさわやかな風が心地よく感じられ、紫陽花の花の鮮やかさが雨粒に映える季節となりました。

さて、学校では1学期の折り返しを迎え、各学年・学級での学習だけではなく、縦割（色別）での活動や異学年での交流学習を進めています。先日は、体育の時間に6年生が3年生に「速く走るコツ」を伝授しました。また、2年生は1年生に、バラエティに富んだ運動（遊び）を紹介する時間を持ちました。さらに、総合的な学習の時間には、6年生と5年生が互いのアイデアをぶつけ合いながら「コドモノ明日研究所」での「ふるさと学習」に取り組んでいます。



1・2年 体育での交流学習

この異学年交流の「よさ」は、なんとと言っても「子どもたちが大きく成長する」ということです。上学年の子どもたちは、伝える相手が明らかになることで「相手意識」を持つようになり、「伝えたい・教えたい」という思いが主体的な学びへとつながります。そして、そのような活動の過程で学習への理解も一層深まっています。一方、下学年の子どもたちは、

上学年の子どもたちの望ましい姿を見て、身につけるべき態度や能力を自然とイメージできるようになります。子どもたちが「人（友だち）と関わることの楽しさ」を感じると共に、「誰かの役に立てた」という自己有用感を得ることができる異学年交流を今後も充実させていきたいと思っています。

災害に備えるーその時を想像するー

地震をはじめ自然災害はいつ襲ってくるか分かりません。登下校中、授業中、食事中、就寝中。海が目の前に広がる高浜では、だれもが津波の被災者になり得ます。だからこそ、日頃からの備えが大切であるということは、頭では分かっています。そこで、訓練を通して、命を守るための行動を学ぶわけです。

ところが、先日、ある災害対応に関する研修で、講師の方から「本当に、その時の自分、その時の状況が想像できていますか？」という問いを投げかけられました。避難を要する災害（地震）では、避難経路は、あらゆる障害物（倒れた家具・ロッカー、割れた窓ガラス等）が通行を妨げます。何よりも「揺れ」は数分間にわたって続き、それも1回とは限り



地震・火災想定 避難訓練

ません。そのような中で、とっさに自分の命を守る行動をとることができるのかということ問われたわけです。例えば、頭部を守るために机の下に体を隠す行動も、机が動くようでは逆に危険です。机が動かないように両手でその脚を押さえることが必要なのです。

高浜小学校では、6月2日に地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。子どもたちは、避難のルール『お・は・し・も・て』を意識しながら短時間で避難を完了することができました。

今後は、研修や今回の訓練を踏まえ、「訓練のための訓練」とならないように、「災害が起きた際、残しておきたい大切な物を考える」学習や自分を主人公とする「防災小説」の試み、地震や豪雨などの自然災害の際、行動をあらかじめ時間を追って整理して備える「マイタイムライン」づくり等、各地で行われている様々な取り組みの良いところを取り入れながら、子どもたちの「命を守る訓練」を実施していきたいと考えています。

「おいしい給食」に感謝

「学校給食は地方（自治）の象徴」という言葉があります。人口も、産業も、財政もそれぞれ違う中、人口が減少し財政は厳しくなっています。だからこそ、その地域の学校給食の形は自治体（町）とその住民とで決めるということです。給食の献立は、生きた教材であり、給食を通して、子どもたちが何を学び、どう育ってほしいかということが表れます。全国には学校給食に力を入れている自治体が数多くあります。高浜町も間違いなくその一つであり、地域の食材を活かした献立作り（地産地消）や、児童（生徒）が食育を通して考えた給食メニューなど、町（地域）と学校と給食センター

がつながり、1年を通して「栄養満点のおいしい」給食を提供していただいています。

4月最初の献立は、「カレーライス、ビーンズサラダ、いちごゼリー、牛乳」。食べ慣れたカレーライスにデザートもついていて、子どもたち、特に1年生にとっては、とてもうれしいことだったと想像できます。また、「学校へようこそ」という歓迎の気持ちも伝えることができたと感じています。

ところが、その給食が全国的に様々な困難に見舞われています。コロナ禍の中で、調理から配膳までの感染対策が求められ、ここ最近では、連日メディアで「悲鳴」、「限界」と取り上げられるほど食品価格が値上がりをしています。その上、食事中は「黙食」が当たり前になっています。



1年 給食 (えんどうごはん)

高浜小学校をはじめとする町内の全小中学校では、町の全面的な支援をいただき、給食費が無償となっており、給食費の値上げを押さえるための工夫などがあり、あまり話題にはなりません。しかし、給食センターでは、常に費用を抑えつつ、材料調達や栄養価を保つ工夫に取り組んでいただいています。このような町や給食センターの支援、取り組みに感謝して、今日も「おいしく、楽しく」給食をいただきたいと思えます。